

北陸石仏の会々報

第 4 号

平成5年11月5日発行

編集発行

北陸石仏の会(日本石仏協会北陸支部)

代表 藤村 善雄

〒939-13 富山県砺波市太田一七七〇 尾田武雄方
電話 〇七六三―三二―二七七二
振替 金 沢 四 一 一 九 七 四

黙して語る

阿部 茂雄

今も身近に見られる石仏の多くは、私たちに何かを語りかけてくれているように思われる。

毎年のように繰り返し襲ってくる天変地異や悪疫の流行(天災)、さらに追い打ちをかけるような重い年貢(重税)等の厳しい環境条件の中にあつてなお、「明日」への希望と勇気を持ち続けながら、「今日」を力強く生きて来たであろう祖先たちの努力の結晶の上に、現在の平和と繁栄が考えられるのではなからうか。

このようなことを想う時、文盲に近い祖先たちが自分の想いを書き記し書き残すこともできず、抑圧された暮らしの中では自己主張さえも叶わぬまま、自分たちの生きざまをはっきりした形で子孫に残すことはできなかったが、せめても「精一杯に生きた」証として残し得たものの一つが、身近に見られる野の仏たちであると思う。そういう意味において貴重な遺産であると考えている。

即ち 生きるための希望や勇気を与えることに大きく関わってきた野の仏(それに大きく関わりを持ってきた

旅の宗教者)の存在であることを考えたい。

野の仏の建立にあたっては、その原因・動機や理由はさまざまであったであろうが、建立されたものへの対応は「死後」のことよりは、「今」をどう生きるかということにより大きな関わりを持ち、その役割を担って生きていたことである。

これらの野の仏たちに対して、ある時は幸せを求めて必死にすがりつき(南無帰依)、誰にも訴えることの出来ない胸の内を打ち明け(人生相談)、絶えず野の仏が見守ってくれている(自信と安心感)、今日も無事に過ごすことが出来たが明日もまた(感謝と喜び)、そして自分の生き方についての具体的な誓い(約束)など、苦楽を共にする仲間として、また何でも打ち明け相談できる先輩として、絶えず身近にあつて直接触れ合い言葉を交わしあつてきていた間柄であつたのである。このように長い間にわたつて祖先たちが逞しく生きてきた足跡を、じつと見守り見つめて来っていたのである。

従つて 野の仏たちの傍らに親しみをこめて坐す時、多くの野の仏たちは黙して語りかけてくれるようにも思われてならない(それを信じて)。その語りかけが少しでも理解出来るようにと、絶えず野の仏と直に触れ合い話しかけることに意を用い、今日も出合を楽しんでいる。

(副会長)

北陸石仏の会 第四回例会記録

第四回例会は、新潟県の担当で、九月二十六日(日)に「栃尾市の石仏探訪」という形で行われました。今回は、本年四月に発足した、新潟県石仏の会との共催で、同会の中越地区栃尾見附ブロッックが事前準備及び当日の運営にあたってくれました。日本石仏協会の坂口会長をはじめとして、参加者一一五名(北陸石仏の会及び日本石仏協会三三名、新潟県石仏の会四二名、その他四〇名)という盛況で、栃尾市の石仏に対する関心の深さを感じました。ひとつひとつの石仏をよく見てほしいとの思いもあり、見学方法はA・Bグループの二班に分かれて行い、途中、常安寺での昼食の折り、全員が揃ったところで、両会の例会が開かれました。

朝から雨模様の日でしたが、午前中はなんとか雨もあたらず、予定の行程を終えることができました。しかし、昼食時から雨が降りだし、予定していた謙信公銅像前での写真撮影は常安寺に変更になりました。また、午後からは、時折どしゃ降りの雨に見舞われ、見学を中断して、車で小降りになるのを待つ場面もありました。それでも、参加者各位の協力を得て、予定通り、定刻の十五時三十分には解散の運びとなりました。

今回の見学会では、見学場所の駐車スペースが手狭だったり、道幅が狭かったりで、大型バスを走らせることができず、北陸石仏の会・新潟県石仏の会の会員等の車に相乗りさせてもらいまし

た。また、遠路栃尾へいらした参加者のために、栃尾名物の油揚げの予約販売に油揚げ屋さんも一役買ってくれましたし、昼食会場を提供くださった常安寺さんからは、味噌汁のサービスがありました。紙面の都合で書き切れませんが、まだまだ多くの方のご協力があって、無事閉会となった石仏探訪でした。ここに、改めてお礼申し上げます。

この日、見て回った石仏は、以下の通りです。一之貝・諏訪神社の石仏群Ⅱ釈迦聖徳太子文字塔、八幡神社石祠、三峰神社石祠(盗難除けの神で、祠に錠と鍵や蟹が彫られている)、彦火火出見尊(山の作物の守護神)など。一之貝旧道の石仏群Ⅱ庚申塔、廻国塔、馬頭観音、道しるべ、天王寺庚申など。秋葉神社石仏群Ⅱ四国八十八ヶ所供養塔、西国三十三番の観音像、延命地藏、伊夜日子大明神など。下来伝・ほだれ様Ⅱ双体道祖神や文字・石祠の道祖神などの石仏群、巳待塔、大国主神。森上・南部神社の石仏群Ⅱ猫又権現(蚕をかじるネズミ除けの神。「招き猫」に通じることから、かつては、芸者さんなどがさかんにお参りにきた)、木曜星神文字塔(神社の位置から想像すると、地神即ち地震や地すべりの守護神と思われる)、造化神社文字塔など。森上・ツンネⅡ子安地藏、十一面観音、延命地藏。

栃尾市は「石仏の里」として知られており、一〇〇種類にもおよぶ多様な石仏が確認されています。今回は、そのほんの一部の見学に終わり、また予定を割愛した部分もありました。お詫び申し上げますとともに、これら石仏を通しての栃尾での再会を願ひまして、報告とさせていただきます。(星野紀子)

第四回例会出席者

(順不同)

| | | | | |
|-------|-------|-------|-------|--------|
| 須藤多已也 | 山崎 進 | 鈴木 紀子 | 松井美枝子 | 大久保まさ子 |
| 鈴木 秋彦 | 渡辺 宏 | 岩嶋 裕 | 内藤千鶴子 | 京田 千鳥 |
| 星 喜久男 | 石月 文子 | 古田 一義 | 藤野 源吾 | 南 金三 |
| 吉田 ふじ | 杉山 もと | 金子 正彰 | 横田 昌治 | 北野 正明 |
| 蓑和 宏 | 奥村 ハツ | 清野 隆志 | 星名 忠直 | 斉藤 善夫 |
| 堀内 正子 | 佐藤美津江 | 松田 チイ | 小林 貞一 | 前田 英雄 |
| 高橋 信一 | 千野 善正 | 中川 光子 | 清野 和子 | 前田 松代 |
| 小林 典子 | 小林 昭二 | 金子 照夫 | 坂口 和子 | 大宮美枝子 |
| 伊藤ミツエ | 石田 哲弥 | 金子百合子 | 山口富士子 | 吉村 英子 |
| 梅田 始 | 星野 紀子 | 榎並キミイ | 田畑治三郎 | 鈴木 孝枝 |
| 斎藤 義信 | 阿部 茂雄 | 武田百合子 | 栗原 榮子 | 石丸 愛 |
| 石本 林三 | 深田百合子 | 菅沼 藤 | 京田 良志 | 外山 玲子 |
| 大竹 信雄 | 石黒 保子 | 中村 静枝 | 京田 悦子 | 山崎 崇 |
| 川村 新治 | 内山 勇 | 鈴木 一美 | 増田 孝子 | 金子 節子 |
| 中山 勇 | 片山 正 | 中村 ミネ | 酒井 初江 | 加藤 和子 |
| 木津 両衛 | 小島 公 | 平野 克昭 | 平井 一雄 | 小林 栄子 |
| 廣橋 菊枝 | 春川 寛平 | 平野志真子 | 大野 猪策 | 吉田チエ子 |
| 田中 良一 | 村山 伸子 | 鷺津 武 | 酒井 和 | 柳沢 栄司 |
| 郡司 哲三 | 渡辺三四一 | 鷺津 芳一 | 牧野たか子 | 大橋 勇 |
| 野口 彌一 | 吉田 晃 | 吉澤 亮子 | 尾田 武雄 | 佐伯 安一 |
| 福原 章 | 吉村 博 | 郡司 ねい | 井川 靖一 | 佐藤 正良 |
| 宮崎 彦一 | 永原 栄一 | 吉川 繁 | 竹樋 雅子 | 滝本 靖士 |
| 星野 直浩 | 前田えづみ | 松金 宏喜 | 永尾 すて | |



北陸石仏の会
平成六年度総会
(第五回例会)
案内

月 日 平成五年十二月五日 (日)

時間..午前10時より午後三時過ぎまで

会場.. 上日寺 じょうにちじ 富山県氷見市朝日本町一六一八

電話〇七六六（七二）〇三四一

参加費..一、〇〇〇円 昼食（笹ずし）希望者は別に八五〇円

日程…一、役員会
総会前

二、総会 午前一〇時より

平成五年度事業報告・同決算報告

平成六年度事業計画・同予算案

その他

三、研究発表 午前一一時より

滝本靖士「庚申塔分類試論」

尾田武雄 「石工・森川栄次郎の研究」

四、講義 午後一時より

田中清一「上日寺をめぐって」

五、参詣と見学 午後二時より

寺域内諸堂、ならびに石造物。

時間があった場合、近くの千手寺域石造物も。

参加連絡…十一月二十七日（土）まで、ハガキにて、昼食希望の

有無を記入の上、事務局（〒939-13 富山県砺波市太田

一七七〇尾田武雄方、北陸石仏の会へ一報下さい。

参考（その一）・・上日寺は、朝日山を号する真言宗の富山県屈指

の古刹。JR氷見線、氷見駅の西北八〇〇メートルの高台にある。貞享二年の書き上げによると、天武天皇の十年創建、天正年間仁然中興という。また、往時は七堂伽藍、十八坊あったと伝える。観音堂は、越中国巡礼（前田安勝天正末年設定という）の四番札所。庫裡前の銀杏（いちよう幹囲り約一一メートル）は国指定天然記念物。天文二十一年銘の石仏群（西国三十三所観音を写した古例石仏）をはじめ寺域は石仏・石塔・石碑などの宝庫である。また、毎年四月十七・十八日に松の丸太で鐘を撞きつづける“ゴンゴン祭り”というのは、上日寺観音の法会のこと。

参考 (その二) .. 往きのJRに、左記のようなものがあります

| | | | | | | | |
|---|------|------|--|------|--|--|-----|
| | (特急) | | | | | | |
| | | 6:20 | | 7:18 | | | 福井 |
| | | ↓ | | ↓ | | | |
| 7:57 | 7:33 | 7:45 | | 8:25 | | | 金沢 |
| ↓ | ↓ | ↓ | | ↓ | | | |
| 8:03 | 8:00 | 8:26 | | 9:21 | | | 高岡 |
| <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 水 9:05←8:30 高 見 9:52←9:25 岡 </div> | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 7:58 | 8:20 | | 8:36 | | | 高岡 |
| | ↑ | ↑ | | ↑ | | | |
| | 7:38 | 7:58 | | 8:17 | | | 富山 |
| | ↑ | | | ↑ | | | |
| | 6:20 | | | 6:40 | | | 糸魚川 |